

東九州自動車道の概要

東九州自動車道は、九州の東側において、北九州市を起点とし、福岡、大分、宮崎、鹿児島各県を結び、鹿児島市に至る全長約436kmの高規格幹線道路です。

路線の沿線には、農林水産業が盛んな地域をはじめ、多くの重要港湾や空港等の交通拠点、北九州市、大分市、延岡市、霧島市等に代表される工業都市が位置しています。

また、歴史的・文化的遺産や魅力的な自然景観にも富んでおり、この地域は大変優れたポテンシャルを有しています。

本自動車道は、これらの海、空の交通拠点とそれぞれの都市の機能を有機的に結び、東九州の産業、経済、文化の活性化に重要な役割を果たすとともに、九州縦貫自動車道、九州横断自動車道とともに高速自動車国道のネットワークを形成し、九州の一体的浮揚を担うこととなります。

平成28年熊本地震では、多くの幹線道路が被災し、救命・救助、物資の輸送や日常生活にも大きな影響が生じた中、本自動車道は被災地への支援ルートとして機能するとともに、通行止めとなった九州縦貫自動車道の代替路となり、九州の産業や暮らしを支えました。



宮崎県 宮崎PA～清武IC間4車線化



鹿児島県 隼人東IC～隼人西IC間4車線化

東九州自動車道の概要図

